

中川昭一・元財務金融大臣を偲ぶ

グローバルウオータ・ジャパン 代表 吉村和就

中川元大臣の突然の訃報に接し深く哀悼の意を表したい。3年ほど前に、中川議員から「グローバルな視点から水問題を考えたいのでレクチャーをお願いしたい」と筆者に要請があり、それ以来のつきあいであるが、とにかく水問題解決に熱心である。

ある時、私が「なぜ中川先生は、水問題にのめり込んだのですか？」と聞くと、「私は農水大臣と経産大臣を務めた時から水に関心を持っていた。その経済を本当に支えているのが「水」ではないかという思いを強く持つようになった。しかし、勉強すればするほどわからなくなった。そこで専門家の意見を聞くために研究会をつくったのだ」と。

中川先生の知識欲も凄い。私が先生の質問に答えて「世界の水総量や、水ビジネス市場の大きさ」などを話すと、かならず詳細なメモをとり、帰りには「これでいいですか」とメモを復唱する、まさにメモ魔である。特に固有名詞と数値にはこだわっていた。



都内某所にて会食

だが中川先生がどこかで講演されるときは、メモ一つ見ないで、2時間でも水問題を熱く語っている。筆者も東大の安田講堂や、東京ミッドタウンでの中川先生の講演を聞いたことがあるが、本当に「水に関するデータ」が頭の中にインプットされている。ものごとの背景を完全に理解し、行動する本当の政治家の姿である。

中川先生は、水の安全保障機構の立ち上げについて、常に「水の安全保障」は国民全体の利益であり、超党派で取り組むべき課題であると強く主張され、機構の設立前に自ら公明党の浜田昌良・国際局長や民主党の直嶋正行・政調会長を訪ね、機構への参加を要請している。

また財務・金融大臣を兼ねていた時は、世界中が金融恐慌で激動する中でさえ、水問題が忘れられないらしく、我々（竹村公太郎氏、山田正教授、筆者）はよく昼食時間に財務大臣室に呼ばれ、戦略機構の進行状況や水をめぐる話題について、報告を求められていた。帰り際に「財務大臣より、水大臣をやりたい」と言われ、一同驚いたが感激して財務省を後にしている。

水問題解決に先陣を切り活躍された、中川先生に心から冥福をお祈り申し上げます。



財務大臣室にて（08年9月30日）